

解 答 速 報

兵庫医科大学 英語

2024年1月24日実施

<解答>

[問 1]

(1) 目的意識という語は、定量化したり定義したりするのが難しいかもしれないが、それは健康全般、体調、さらには余命にまで関わる大きな要因となりうる。

(2)

(ア)	popularized the idea of using humor
(イ)	fair amount of literature about
(ウ)	derive purpose from raising kids
(エ)	no easy way to measure
(オ)	to help us cope with

[問 2]

(1) ③

(2) ある単語を、運動を司る脳領域と結びつけることは、その単語の意味についての記憶を強化するというのが、ある研究チームが磁気パルスを用いて言語学習者のこうした脳領域を意図的に混乱させた末にたどり着いた結論である。

[別解]

単語を、運動を司る脳領域と結びつけることで、その単語の意味記憶を強化できるという結論に至るまでに、研究チームは、磁気パルスを使って言語学習者のこうした領域の働きを意図的に阻害する実験を行った。

(3) ③

(4)

(ア)	⑥	(イ)	②	(ウ)	①	(エ)	⑨	(オ)	④
(カ)	⑦	(キ)	⑩	(ク)	⑤	(ケ)	③	(コ)	⑧

[問 3]

(1) ストレスホルモンであるコルチゾールは、植物と触れ合うことで低下することが示されており、これにより、疲労、苛立ち、血圧が低減するのだ。ガーデニングや植物の世話をすることは、人々の意識を否定的な考えや気分からそらすのに役立つ。

[別解]

植物と接することで、ストレスホルモンの一種であるコルチゾールの低下がみられた。またその他にも、疲労の軽減、過敏症の緩和、血圧の低下といった効果が得られた。庭いじりをしたり、植物の世話をしたりすることで、人は後ろ向きな思考や感情に目を向けなくてすむようになる。

(2) ④

(3) ① (room for a little trial and error)

(4) ②

(5) ア. ③ イ. ② ウ. ①

[問 4]

- (1) In my junior high and high school days, we would be advised to close our eyes and breathe slowly for a short time before the class started.
- (2) One example of a breathing technique is to breathe slowly while lying down or sitting down, paying attention to the movement of the air as it passes through the airways.

[別解] For example, one method is to lie down or sit down, taking a slow breath, and focus your attention on the movement of air through the airways.

- (3) I was once taught by one Zen Buddhist one form of Zen meditation, which is characterized by exhaling slowly with the voice sound “moo”.

[別解] In the past, I was taught by a Zen priest to exhale slowly while uttering “Muu”, which is a breathing method of zazen.

<解説> [以下の構造説明においては、__ が S、__ が V、... が O、... が C を表す]

[問 1] 長文総合

- (1) 「目的意識という語は、定量化したり定義したりするのが難しいかもしれないが、それは健康全般、体調、さらには余命にまで関わる大きな要因となりうる」
和訳すべき箇所の構造を確認する。

The term may be hard <to quantify or define>, but it can be a big factor (in overall well-being,
s v c s v c
physical condition and even life expectancy).

前半の文はいわゆるタフ構文になっており、次のように書き換えることができる。

The term may be hard to quantify or define.

= It may be hard to quantify or define the term.

したがって、“The term” は、他動詞 quantify 「～を定量化する」と define 「～を定義する」に共通する目的語になっている。また、設問に「The term が指す内容を明らかにして」と指示があり、その指す内容は第 1 段落第 1 文の “sense of purpose” 「目的意識」である。

but 以降の後半部については、並列要素の取り違えをしないように注意する必要がある。well-being 「健康、幸福」、physical condition 「体調」、life expectancy 「余命」といった表現の知識は必要である。

(2)

- (ア) (~Norman Cousins' 1979 landmark book *Anatomy of an Illness*, which) **popularized the idea of using humor (to foster healing).**

「ノーマン・カズンズが 1979 年に出版した『疾患の解剖』という画期的な著作、これをきっかけとして、回復を促すためにユーモアを活用するという発想が普及した」

popularize 「～の人気を高める、～を普及させる」

<the idea of doing ~> 「～するという考え」(of は〈同格〉を表す)

- (イ) (There was already a) **fair amount of literature about** (life purpose and health outcomes.)

「人生の目的を持つことで健康にどのような影響があるかについては、既にかなり文献がある」

<a fair amount of ~> 「かなりの量の～」

literature 「文献、論文」

- (ウ) (Some may) **derive purpose from raising kids** (or helping with grandkids, ~)
 「子どもを育てたり孫の面倒を見たりすることから、人生の目的を引き出す人もいるかもしれないし、
 ~」
 <derive A from B> 「A を B から引き出す、得る」
 raise 「～を育てる」
- (エ) (But because there is) **no easy way to measure** (stress and it's so complicated, ~)
 「しかし、ストレス測定の手軽な方法は存在せず、どうしても煩雑なものになってしまうので、～」
 <there is no easy way to do ~> 「～する簡単な方法はない」
 measure 「～を計測する、測定する」
- (オ) (The stress response system, which is designed) **to help us cope with** (adversity and challenge, functions better ~)
 「ストレス反応の仕組みは、私たちが逆境や困難に対処する際に役立つよう作られており、それが比較的うまく働くのは、～」
 <help O (to) do ~> 「O が～するのを助ける、O が～する助けになる」
 <cope with ~> 「～に対処する、～をうまく処理する」

[問2] 長文総合

(1)

- ① 「～を偶然見つける」
 ② 「～を保つ」
 ③ 「～を用いる、～に訴える」
 ④ 「～を解明する」

下線部を含む1文のおよその意味は「外国語を学ぶとき、たいていの人は昔ながらの方法、つまり読む、書く、聞く、繰り返すという方法に～」である。<fall back on ~> は「～に頼る、～を当てにする」という意味の表現であるが、知らなかったとしても、文脈からある程度予想することは可能である。

- (2) 「ある単語を、運動を司る脳領域と結びつけることは、その単語の意味についての記憶を強化するというのが、ある研究チームが磁気パルスを用いて言語学習者のこうした脳領域を意図的に混乱させた末にたどり着いた結論である」
 和訳すべき箇所の構造を確認する。

This is the conclusion (a research team reached <after using magnetic pulses <to deliberately disrupt these areas in language learners>>).

S V C S' V' [V] [O]

This の内容については、直前の1文全体である。その1文の構造も確認する。

Linking a word to brain areas (responsible for movement) strengthens the memory of its meaning.

S V O

主語に含まれる形容詞句 “responsible for movement” については、<be responsible for ~> の複数の意味から適切なものを選択する必要がある。ここでは脳領域が主語であることから、「～を司る」といった意味が適切である。全体としては、「ある単語を、運動を司る脳領域と結びつけることは、その単語の意味についての記憶を強化する」となる。この文内容を This に当てはめて、下線部訳を構成する。下線部そのものの訳は次の通りである。

「このことは、研究チームが、磁気パルスを用いて言語学習者の当該領域を意図的に混乱させた後に到達した結論である」

ここに、上述の前文内容を組み込むことで、解答を仕上げることができるが、日本語として不自然に

ならないように、若干工夫が必要となる。工夫の一つとして、A after B を「A のまえに B」と前から訳すことも考えられる。これを実行したものが[別解]である。

(3)

- ① 「道、針路、講座」
- ② 「信奉者、随行者」
- ③ 「参加者」
- ④ 「テーマ、主題、論題」

subject には、主題、科目、主語、臣下といった意味があるが、実験に関する文脈では、ほぼ「被験者」という意味で用いられているとあってよい。participant も同じ意味でよく使われている。

(4)

- (ア) ⑥ ~ they had 22 German-speaking adults learn a total of 90 invented artificial words (~) **over** four days.
- (イ) ② At the same time, they had an apparatus **attached** to their heads ~.
- (ウ) ① ~, the subjects found it harder to recall the words **accompanied** by gestures.
- (エ) ⑨ I think where this study takes it a **step** further is trying to understand *why*, ~.
- (オ) ④ ~ but it's probably a **contributor**.
- (カ) ⑦ In contrast, children ~ seem to benefit from pictures as much as gestures in the long **run**.
- (キ) ⑩ ~, the adults benefited more from the gestures than the pictures, **while** the children were helped equally by both.
- (ク) ⑤ But it is not **only** the motor component itself that promotes learning. The intrinsic meaning of the gesture also figures in, ~.
- (ケ) ③ **Back** in 1995, a study showed that ~.
- (コ) ⑧ People use it **spontaneously**, if they're good teachers and good listeners, ~.

まずは文構造を確認して空所に入れるべき品詞をできるだけ確定し、一番確実と思われるところから順に答えを決めていくことが大切である。

(イ)を含む文は、<have O C> を想定し、「同時に、彼らの頭にある装置が取り付けられた」と考える。attached が入る。

(ウ)を含む文は、「(ウ) by gesture」が直前の words を修飾する形容詞句だと想定し、「～、被験者は身振りを伴った単語を思い出すのがより困難であるとわかった」と考える。accompanied が入る。

(エ)は、<a step further> 「さらに一歩先へ」という副詞句を想定する。

(カ)は、<in the long run> 「結局は」という副詞句を想定する。

(キ)は、SV と SV をつなぐ接続詞が入るため while と決まる。

(ク)を含む文は、次の文中に also があることに注目し、<not only ~ (but) also ...> を想定する。この2文合わせて「学習を促進するのは運動の要素そのものだけではなく、身振りに本来備わっている意味もまた関わってくる、～」と考える。

(ケ)は、<back in ~> 「～にさかのぼると」という副詞句を想定する。

この時点で、④の contributor、⑥の over、⑧の spontaneously が残っている。

(オ)には、名詞が入ることが確実なので、contributor 「誘因」と決まる。

残った(ア)と(コ)は、文意を吟味する。

(コ)を含む文は、空所に spontaneously が該当すると想定すると、「もし彼らが良き教師であり、良き聞き手であるなら、人々はそれを無意識に用いている」となる。

(ア)を含む文は、空所に何も入れなくても、<four years> で「4年間」という副詞句をつくることは可能だが、<over four years> を想定し「4年にわたって」と考える。

〔問3〕 長文総合

- (1) 「ストレスホルモンであるコルチゾールは、植物と触れ合うことで低下することが示されており、これにより、疲労、苛立ち、血圧が低減するのだ。ガーデニングや植物の世話をすることは、人々の意識を否定的な考えや気分からそらすのに役立つ」
和訳すべき箇所の構造を確認する。

Cortisol, the stress hormone, has been shown to lower <with plant interaction>,
s v c

<lowering fatigue, irritability and blood pressure>.
[V] [O]

Gardening and caring for plants can help turn people away <from negative thoughts or emotions>.
s v o

第1文の前半に関しては、主語である Cortisol に対して同格の名詞要素 “the stress hormone” が置かれている点に注意する。<be shown to do> は「～すると示されている、わかっている」といった訳をすればよい。“plant interaction” については第2段落を読んだ段階ではよく意味がわからないかもしれないが、第6段落第1文にも “Before you bring home a boatload of botanicals, Jones says it’s not about how many plants you have, but rather how you interact with them.” 「大量の植物を家に持ち帰る前に、ジョーンズは、植物の数ではなく、植物とどう付き合うかが重要だと言う」とあり、「植物と触れ合うこと、植物に付き合うこと」といった意味であることが予想できる。

難しいのは第1文後半で、分詞構文だとすると、主文の主語が Cortisol であるはずだが、そうだとすると内容に矛盾が生じる。そこで、分詞構文の意味上の主語を plant interaction と想定する、もしくは前文の内容全体を主語と想定することで対処することになる。そのように想定すると、「(植物と触れ合うことは/植物との触れ合いによりコルチゾール値が低下することは) 疲労、苛立ち、血圧を低下させる」と訳すことができる。主語を副詞的に言い換えて、「それにより、～が低減する」といった訳も可能である。

第2文については、<turn~away from...> 「～を... からそらせる、～を... から引き離す」という表現をどう訳すかに注意が必要である。「人々をネガティブな考えや感情からそらす」は若干不自然な日本語となるので、「人々の意識を～からそらす」もしくは「～に目を向けさせない」といった工夫ができるとういだろう。

- (2) ④ to

前半の空所は、“tending (2) plants”とあり、「植物の世話をする」と考えるとよい。tend to は後ろに名詞を伴うことで、「～に気を配る、～を世話する」の意味になる。後半の空所は、“Plants and exposure (2) greenery”とあり、「植物や緑にさらされること」と考えるとよい。<exposure to 名詞>で、「名詞にさらされること、～への曝露」という意味である。以上より、正解は④の to となる。

- (3) ① a little trial

leaving につなげるには、<leave room for> 「～の余地を残す」という表現を予想できる。残っている語群は、a little trial and error として、「少しの試行錯誤」となることが予想できる。これらをまとめると、(leaving) room for a little trial and error となる。1文の意味は「植物の手入れをするようになった人はだれであれ、忍耐力を持ち、基本を学ぶ時間をとって、少し試行錯誤をする余地を残すはずだ」である。

- (4)

- ① 「～を育てる」
② 「～に…を捧げる」
③ 「～を…に分与する」
④ 「～を…で処理する」

下線部(4)に含まれる表現、<invest O in ~>は「～に O (時間や労力など)を投じる、費やす」である。下線部(4)を含む節は、“how much time you’re willing to invest in plant parenting” となり、「どれだけ多くの時間を植物の手入れに費やすつもりがあるか」という意味になる。この <invest O in ~> と置き換え可能な表現は②の devote to しかない。<devote O to ~> で「～に O を捧げる、充てる」という意味である。

- (5) ア ③ イ ② ウ ①

わかりやすい箇所から検討する。

空所イは、前文との関係で選ぶとよい。前文は “If you have a small space or aren’t sure how much time you’re willing to invest in plant parenting, starting out with a lot of plants could be overwhelming,” であり、その意味は「もし狭い場所しかなくて、植物の手入れにどれだけ時間を投じてもかまわないのかよくわからないならば、たくさんの植物から始めてしまうと手に負えない可能性があるだろう」である。だからこそ、育てる植物はたった一つでも構わないという流れになることが予想できるはずである。イに入れるべき候補である②の選択肢の意味は、「たった一つの植物でも効果がある可能性がある。つまりそれは、触れ合うたびに前向きな気分反応を生み出す香りや色で、あなたを魅了する可能性がある」となる。

空所ウも、前文がヒントになる。前文は “Remember that while indoor gardening can be a boon for your mental well-being and can help with stress and relaxation, it’s not a cure-all.” であり、「屋内でのガーデニングがあなたの精神面での健康にとって恩恵をもたらし、ストレスに対処するのに役立ち、心の平安を生む助けとなりうるが、それがすべての特効薬であるわけではないということ覚えておこう」となる。万能薬であるわけではないという留保がつけられていることから、続く内容も植物の世話の持つ効用の限界に言及していることが考えられる。よって①を選ぶことができる。①の意味は、「ひとつの植物があることが、精神面の健康の作用にすぐに、あるいは直接的に影響を及ぼすわけではない」である。

空所アには残った選択肢③を入れることになる。念のため根拠を確認する。空所には、前文の内容を裏付けるために引き合いに出されている専門家の発言と考えられる。前文は、“Studies have also shown that plants and gardening increase productivity and level of serotonin, the neurotransmitter responsible for uplifting mood” であり、その意味は、「さまざまな研究によると、植物とガーデニングは生産性と気分の高揚を引き起こす神経伝達物質であるセロトニン値を高めるということもわかっている」となる。この内容に合う選択肢は、③であり、その意味は「昔のことを考えたり未来のことを思い悩んだりするよりは、植物の世話は現在のこの瞬間に意識を向けることの助けとなりえて、達成感を提供してくれるのである」である。

〔問 4〕 和文英訳

- (1) 「私の中高時代には授業開始前に短時間、目を閉じてゆっくりと息をするようにいわれていた」

「中高時代」は In my junior high and high school days / In my junior and senior high school days / When I was at secondary school など、「授業開始前に」は before (the) class began / before (the) class started など、「短時間」は for a short time など、「目を閉じて」は close our eyes / with our eyes closed など、「ゆっくりと息をする」は breathe slowly / take a slow breath など、「～するよういわれていた」は was advised to do ~ / was told to do ~ などとするとよい。なお「いわれていた」のは私だけにでなく生徒全体に向けてのものと予想できるので主語は we とするのが妥当だろう。

- (2) 「例えば横になったり座ったりしてゆっくりと呼吸し、気道を通る空気の動きに意識を向ける方法がある」

「例えば～方法がある」は one example of ... technique is ~ / for example, one method is ~ / for instance, one is ~ など、「横になったりすわったりして」は lie down or sit down など、「気道を通る」は through the airways / through the respiratory tract など、「空気の動き」は the movement of air (as it passes) / air passage など、「～に意識を向ける」は pay attention to ~ / focus your attention on ~ などとするとよい。

- (3) 「以前、ある禅僧から座禅のひとつとして「ムー」と口に出しながら息をゆっくり吐き出す方法を教わった」

「以前」は once / in the past など、「ある禅僧」は one Zen Buddhist / a Zen priest / a Zen monk など、「座禅のひとつ」は one form of Zen meditation / a ~ method of zazen など、「～と口に出し」は with the voice sound ~ / utter ~ など、「息を吐き出す」は exhale など、「教わった」は be taught などとするとよい。

講評

- 問1** [長文総合] (やや易) 「目的意識が健康に与える好影響」に関する英文。指示内容を明示させる下線部和訳に、昨年度と同様に文中語句整序問題が5問。取り組みやすく、高得点を狙える。
- 問2** [長文総合] (標準) 「新たに言語を習得する際、体を動かすことの効果」に関する英文。昨年度と同様に10カ所の空所を埋める問題が出題された。確実に決まるところから埋めることで、十分に対処できる。
- 問3** [長文総合] (標準) 「植物との触れ合いがもたらす、ストレス低減を含めた精神衛生面での効果」に関する英文。2019年度に出されていた文挿入問題が出題された。文中語句整序問題はやや難しい。
- 問4** [英訳] (標準) 「禅における呼吸法」に関する和文中の一部を英訳する問題。昨年度までの全文訳から下線部3カ所を英訳する形式に変更された。体の動き等に関する定型表現が身につけていれば容易だが、記述の分量自体は増加した。

大問数は昨年度と変わらないが、設問には若干の変化が見られた。全体としてはやや分量が増加したものの、時間的にはかなり余裕をもって臨むことができる。標準的な良問で実力差が出やすい。目標は70%

メルマガ無料登録で全教科配信! 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで

医学部進学予備校 **メビオ**
☎0120-146-156 <https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校
heart of medicine **YMS**

☎03-3370-0410
<https://yms.ne.jp/>

医学部専門予備校
英進館メビオ 福岡校

☎0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>



登録はこちらから

合格への最後の一步!

受講
無料

金沢医大 1/30 (火)
前日特別講座

18:00~18:30 ホテルフクラシア大阪ベイ

諦めない受験生をメビオは応援します

参加
無料

医学部後期入試
ガイダンス 2/4 (日)

14:00~14:30 大阪梅田
ツインタワーズ・ノース

詳しくは Web または お電話で

医学部進学予備校 **メビオ** フリーダイヤル ☎0120-146-156

校舎にて個別説明会も随時開催しています。
【受付時間】9:00~21:00 (土日祝可)

大阪府大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋
天満橋駅(京阪/大阪メトロ谷町線)より徒歩3分